

都市再生整備計画

みかわあんじょうこうりゆうきよてんちく
三河安城交流拠点地区

(第1回変更)

あいち あんじょうし
愛知県 安城市

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	愛知県	市町村名	あんじょうし 安城市	地区名	みかわあんじょうこうりゆうきよよん ちく 三河安城交流拠点地区	面積	57.3 ha
-------	-----	------	---------------	-----	------------------------------------	----	---------

計画期間	令和 7 年度 ~ 令和 11 年度	交付期間	令和 7 年度 ~ 令和 11 年度
------	--------------------	------	--------------------

<p>目標</p> <p>大目標：三河安城地域の中心にふさわしい、地域住民と来訪者が関わり続けられる交流拠点の実現</p> <p>目標1：つくる 三河安城交流拠点をきっかけとする、居心地よく滞在できる交流空間の創出</p> <p>目標2：つかう 地域住民や来訪者が気軽に関わり、居心地よく活用できる公共空間の創出</p> <p>目標3：関わる 三河安城交流拠点と周囲がつながり、まち全体で稼ぐ力を伴う関係人口の創出</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>安城市は、かつて日本デンマークと呼ばれる農業先進地であり、自動車産業の成長とともに、JR安城駅を中心に拠点づくりを進め、人・施設がコンパクトに集積した都市構造を形成してきた。しかし、今後は緩やかな人口減少が見込まれる中、まちの持続可能性を高め「いかにコンパクトにまちをつくるのか」を視点と、まちをつくるだけでなく、つくったモノ(公共空間)をどのように活用するのか、つまり、「いかにつかうのか」の視点を持ち合わせて都市づくりを進めていく必要がある。</p> <p>そのため、将来人口や産業規模に見合った適切な規模の市街地が確保されることを目的に、主要鉄道駅(JR安城駅、新幹線三河安城駅、名鉄新安城駅及び名鉄桜井駅)周辺に都市機能や居住が高度に集積していくよう都市づくりを推進している。また、今後増え続ける高齢者を念頭に、生活を支える利便機能が身近に維持・確保された、歩いて暮らしやすい生活圏を形成するとともに、世代やライフスタイルに応じた多様な移動手段を確保するなど、都市機能が便利に使える集約型都市づくりを目指すこととしている。その中で、本整備計画の対象区域である三河安城駅周辺は、「西三河の玄関口」としてマチナカ拠点区域(都市機能誘導区域)と位置付けており、安城市民や西三河地域への来訪者が交流を図る等により関係人口を創出する広域的交流施設の誘導を起爆剤として、これまでのウォーカブル推進事業で活発化した民間まちづくり活動や周辺土地利用の転換といった相乗効果により、官民が一体となった居心地のよいまちなかを創出することを目指している。</p> <p>また、今後、鉄道駅を中心とする拠点を核とした集約型都市構造を支えるとともに、高齢化の進展による高齢者のお出かけ需要の増加が予想される状況において、安全・安心な移動手段確保のためには、公共交通の維持・活性化がより一層重要となる。そのため、利用者ニーズに応じたサービスの見直し、社会情勢の変化や新たな交通技術の動向等に応じた地域特性やニーズに応じた交通手段、サービスの在り方について検討し、多様な交通手段が連携した公共交通ネットワークの維持・活性化を図る。</p> <p>公共不動産の活用策として、三河安城駅近傍の民間工場跡地を活用し、官民連携で広域的交流施設を誘導すること、当該施設を将来的な都市機能再編に備えストック施設として確保していくことで、地域の実情に合わせた都市機能の拡散防止と公共不動産の有効活用を図る。</p>
--

<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>【まちの成り立ち】本市の三河安城駅周辺は、昭和63年の東海道新幹線三河安城駅の開業を契機に、土地区画整理事業により誕生／成長した新しいまちである。</p> <p>【まちの当初設定ビジョン】安城市の副都心として、そして西三河の玄関口「新三河文化の創造」拠点として、「まち」と「ひと」とともに育ててきた。</p> <p>【まちの成長】新幹線駅の開業や土地区画整理事業の施行に加え、三河安城駅周辺まちづくり指導要綱や地区計画の併用によるまちづくりにより、街区の約88%の敷地に建物が立地し、計画的かつ段階的な居住・都市機能が誘導されている。</p> <p>【まち・ひとの成長】居住・都市機能の段階的な立地により、居住者は安定的に増加(開業前の約4倍、計画人口の約1.3倍(8,298人/2020年国調、当初1,928人、計画6,251人))している。また、近年では次世代自動車の研究開発企業が現在進行形で集積しつつあるなど、昼夜を問わず多くの居住者・就労者が滞在するまちとなっている。</p> <p>【まちの課題】令和9年度に三河安城駅開業40周年を迎えようとする中、地区内の都市基盤にあっては鉄道駅連絡通路の雨漏りや歩道・公園等の破損といった「まちの老朽化」、長らく公共空間を積極的に活用する仕組みがないことも起因し伸び悩む「まちをつかう民間活動の育成」、まちなかに滞在する居住者・就労者が皆無であり専ら職住の行き来への公共空間利用に限られるなど「まちの滞在快適性」に課題があった。その後、令和2年創設の公共空間を活用した社会実験制度(マチナカプレイスメイキング)を契機に、まちをつかう民間活動が行われるようになり、公共空間の活用が定着・増加した。しかし、これらの民間活動に見合った機能(電源、給排水等)が不足するなど、地区内の「都市施設の陳腐化」が課題として顕在化してきた。また、公共空間を中心とする民間活動を展開するにあたって、居住者・就労者が求めるまちでの過ごし方が可視化できておらず、民間活動を活性化するためにも、地域ニーズの可視化につながるデータ収集基盤が必要となっている。さらに、こうした地区内での公民の所有によらず空間活用の取組が増えつつあるなかで、日常生活での当地区が移動だけでなく居心地よく滞在できる・活動できる空間として機能する環境づくりが必要となっている。</p> <p>【課題解決に向けた取組】マチナカプレイスメイキングと並行して、活動者同士がつながるプラットフォーム(つかう.meet)における対話、共同活動が継続的に行われ、まちをつかう民間活動が大幅に増加(R2/0件→R5/40件)している。さらに、民間活動によるアンケート収集(R2/0件→R4~R6/2,821件)やワークショップ開催数(つかう.meet)が機能し始め、地域ニーズをくみ取るデータ収集基盤ができてきた。これらのデータ収集基盤で得られた活動データから、地域が求める「地域住民や来訪者がともに過ごし、関わり合える機能や空間」の一端が露わになってきており、その先導的な空間整備として、新幹線三河安城駅北口にある矢総公園をはじめとする公共空間の再編を行い、活動の活性化と西三河地区の顔づくりとして新たな魅力づくりへの取組を始めている。</p> <p>【新たな官民連携の取組と課題】まちをつかう民間活動や市民ワークショップなどで出た交流空間の創出に対する市民ニーズの高まりを受け、本地区内の民間工場跡地にて、プロバスケットボールチームの本拠地として、地域が求める「地域住民や来訪者がともに過ごし、関わり合える機能」を実装した三河安城交流拠点(アリーナ)が計画されることとなった。このプロジェクトは、本地区の活性化と賑わい創出を目的に建設されるものであり、今後、アリーナを核として、居心地よく滞在できる交流空間や活用できる公共空間を創出しながら、まち全体で官民連携により、稼ぐ力を培うための仕組みづくりを構築することが求められている。</p>

<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三河安城地域の交流拠点として地域住民の相互交流機能、西三河各方面からの来訪者と地域住民間による相互交流機能として、広域的交流機能が求められている。 ・鉄道駅連絡通路等の公共空間老朽化の解消及び広域的交流施設の誘致等により地区内歩行者の増加が見込まれるため、歩行者空間の安全性を確保しつつ、地域の賑わいを創出し、歩いて楽しめる回遊環境の形成が求められている。 ・マチナカプレイスメイキングや市民ワークショップにより、市民ニーズを収集するデータ収集基盤ができてきたが、データ収集基盤で得た市民・活動者ニーズを満たす機能誘導が求められている。 ・プロバスケットボールチームの本拠地として官民連携による「アリーナを核とするまちづくり」を仕掛けるなど、エリア全体の価値を向上させる核づくりが求められている。 ・地区内の公共空間を活用する取組が浸透し、増加を続けている中、より高次元活動を引き起こす空間へ整備し、多様な人が集まる交流拠点が創出されることをきっかけとして、これまで以上に、日常的に公共空間を活用することが定着化し、居心地よく滞在する人で溢れることを目指した取組が求められている。 ・民間のまちづくり活動等に基づいた公的空間の活用を活性化させることにより、関係人口を創出し、まち全体で稼ぐ力をつけ、エリアへの好循環につながる仕組みづくりが求められている。 ・広域的交流施設の誘導により、三河安城地域を中心に、商業・業務機能など連関するサービス・産業が誘導・育成され、都市機能誘導区域への機能集積が求められている。 ・都市機能誘導区域への機能集積により、エリア外縁の居住誘導区域を中心に、マチナカ居住が誘導されることが求められている。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【三河安城交流拠点をつきかけとする、居心地よく滞在できる交流空間の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三河安城交流拠点内のアリーナにおける、地域への来訪者と地域住民が相互に交流できる空間の創出 ・三河安城交流拠点内のオープンスペースにおける、居心地よく滞在でき回遊できる交流空間の創出 ・三河安城交流拠点と周辺公共空間とのアクセシビリティ強化による、三河安城交流拠点を中心とするエリア内での滞在快適性向上への波及 	<p>【基幹事業】(高次都市施設 観光交流センター)三河安城交流拠点 【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場、人工地盤)三河安城交流拠点 【関連事業】地域スポーツコミッション事業</p>
<p>【地域住民や来訪者が気軽にに関わり、居心地よく活用できる公共空間の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリア中心地である三河安城駅近接広場における、地域への来訪者が居心地よく滞在でき回遊の起点となるハブ空間の創出 ・エリア中心地である三河安城駅近接広場における、地域住民が居心地よく滞在・活動できる空間の創出 ・三河安城駅近接広場の機能活性化による、三河安城駅及び三河安城交流拠点を中継点とするエリア内での滞在性向上への波及 	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場)三河安城駅周辺広場 【基幹事業】(エリア価値向上整備事業)賑わい創出型社会実験</p>
<p>【三河安城交流拠点と周囲がつながり、まち全体で稼ぐ力を伴う関係人口の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三河安城交流拠点を中心とする、プロバスケットボールチームの本拠地としての周知・啓発・コンテンツ活用による、エリア価値向上の取組強化 ・三河安城交流拠点を中心とする、官民連携による国際大会の誘致・受入れや地域向けイベント活動の企画・運営による、来訪者・地域住民の来訪目的の積極創出 ・三河安城交流拠点と三河安城駅周辺を中心とする、エリア内のアクセシビリティ向上による、エリア内への滞在快適性の強化 	<p>【基幹事業】(高次都市施設 観光交流センター)三河安城交流拠点 【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場、人工地盤)三河安城交流拠点 【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場)三河安城駅周辺広場 【基幹事業】(エリア価値向上整備事業)賑わい創出型社会実験 【関連事業】地域スポーツコミッション事業、モビリティ人材育成事業</p>
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <p>★民間まちづくり活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年6月、「マチナカブレイスメイキング事業」を創設し、仮説ある活動に対し、当区域内の公共空間を無償貸出するしくみ(1ストップ申請かつデータ支払)をつくり、まちをつかう取組の普及、民間まちづくり活動の発掘を行っており、現在10団体が社会実験に携わっている。 ・「三河安城商店街振興組合」、「株式会社カンドタカメ」が発起人となり上記4団体及び安城市有志が集まった「まちをつかう」ために「話す」「活動する」を活動の軸とするプラットフォーム「つかう.meet」が結成され、本プラットフォームによらず、団体間のコラボレーション活動が企画され、本地域の公共空間において、公民及び民民連携が始まりつつある。 ・プロスポーツチームや実業団チームと地域が連携し、パブリックビューイングや選手の学校訪問、選手とのワークショップなど「スポーツをフックとするまちづくり」が進んでいる。 ・三河安城地域において関係人口を創出すべく、地域住民・企業を中心に「アリーナのつかい方ワークショップ」を開催するなど、市民により広域的交流施設のつかい方・過ごし方が検討されている。 <p>★ステークホルダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルグランドティアラ安城(株式会社レクスト)、ビレッジ開発と「まちづくりにおける連携協力に関する協定書」を締結し、(都)駅前中央通り線の歩道隣接空間(奥行2m分)を社会実験用地として提供されている。 ・計画区域内に、プロバスケットボールチーム「シーホース三河」の本拠地(アリーナ)を計画するため、シーホース三河株式会社と株式会社アイシンとそれぞれ包括連携協定を締結した。 ・アリーナの市民ニーズを把握するため、シンポジウム、市民アンケート、ワークショップなど、計8機会の市民参加機会を設けた。(1つずつ述べてよい) ・アリーナを地域活性化のために活用するべく、株式会社アイシンからアリーナの寄附について申出があった。 ・三河安城交流拠点検討審議会により、申出に対し市民の利益が確認できることから寄附が相当であると評価され、指定管理者制度や公共施設等運営権を重畳利用する独立採算スキームによる施設運営を検討することとなった。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣府の「i-都市再生モデル調査」で選定され、まちの課題(データ)をGoogle Earthで見える化するしくみを構築(コンバーターアプリの開発)し、つかう.meetや区域内イベントでの活用など、まちづくりにおけるDX活用が始まっている。 ・国土交通省の3D都市モデルに選定され、LOD2相当の3D都市モデルを作成し、まちづくりにおけるDX活用が始まっている。 ・民間まちづくり活動のプラットフォームについては、国土交通省「第1回まちづくりアワード計画構想部門」で特別賞を受賞した。 ・「スポーツをフックとするまちづくり」については、スポーツ庁「スポまち！表彰2023」を受賞している。 ・国土交通省の「モビリティ人材育成事業」を活用し、シーホース三河株式会社を中心に、三河安城交流拠点が地域に与える交通の諸課題を可視化し、地域住民・企業と課題共有を行い、共同で解決策を検討する人材育成の仕組みづくりに取り組んでいる。 <p>★三河安城交流拠点の負担付き寄附</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本施設は、間接補助事業者より負担付き寄附の申出を受けており、本市では三河安城交流拠点検討審議会での審議・答申結果を踏まえ、市民の利益を最大化すること等を前提に、間接補助事業者等との間で令和6年1月に「三河安城交流拠点の建設及び管理運営に関する基本協定」を締結し、負担付き寄附で公の施設として運営していくことを予定するに至っている。なお、都市再生整備計画における地域生活基盤施設の三河安城交流拠点広場は寄附対象外としている。 	

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集集中支援事業)

様式(1)-④-1

交付対象事業費	182	交付限度額	91	国費率	0.5
---------	-----	-------	----	-----	-----

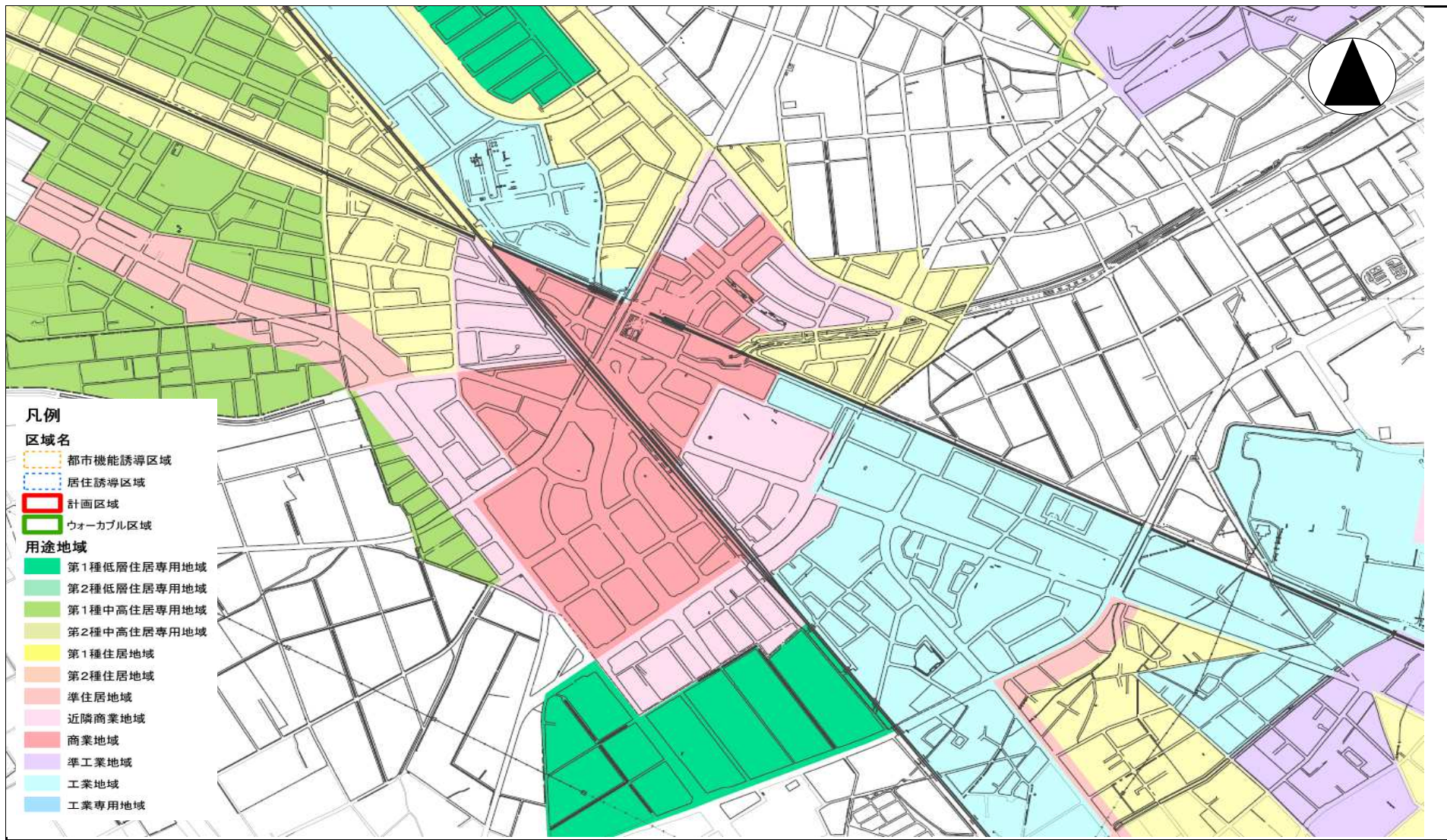
「都市構造再編集集中支援事業」を活用した場合、本様式を使用すること

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付対象事業費		費用便益比B/C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
道路														
公園														
古都保存・緑地保全等事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設 広場														
地域生活基盤施設 広場		三河安城交流拠点交流広場(仮)	民間	間	3132.2㎡	R7	R9	R7	R9	270	270	180	90	180
地域生活基盤施設 人工地盤														
高質空間形成施設														
高次都市施設	地域交流センター													
	観光交流センター													
	テレワーク拠点施設													
	賑わい・交流創出施設													
	賑わい・交流創出施設(地域資源活用型)													
	子育て世代活動支援センター													
	複合交通センター													
誘導施設	医療施設													
	社会福祉施設													
	教育文化施設													
	子育て支援施設													
	元地の管理の適正化													
広域連携誘導施設														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
バリアフリー環境整備事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業														
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
復興促進事業														
エリア価値向上整備事業		三河安城交流拠点地区	安城市	直		R10	R11	R10	R11	2	2	2	0	2
こどもまんなかまちづくり事業														
暑熱対策事業														
合計										272	272	182	90	182

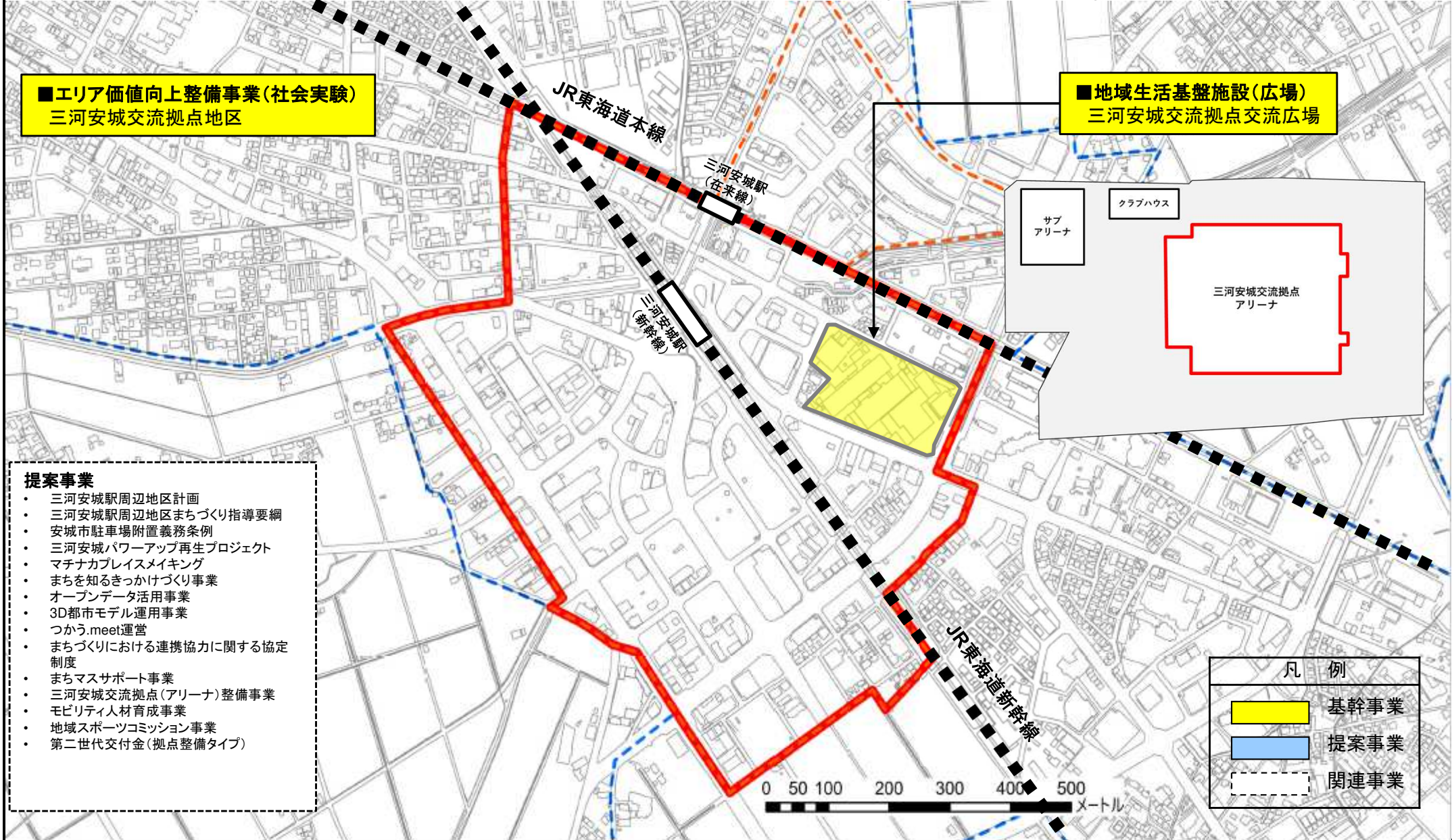
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付対象事業費		
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
地域創造支援事業														
事業活用調査														
まちづくり活動推進事業														
合計										0	0	0	0	0

三河安城交流拠点地区(愛知県安城市)	面積	57.3 ha	区域	安城市三河安城調一丁目の一部
--------------------	----	---------	----	----------------



三河安城交流拠点地区(愛知県安城市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	目標1: つくる 三河安城交流拠点をきっかけとする、居心地よく滞在できる交流空間の創出	代表的な指標	交流拠点の入場者数 (人/年)	0人/年 (R5年度) → 315,000人/年 (R11年度)
	目標2: つかう 地域住民や来訪者が気軽にに関わり、居心地よく活用できる公共空間の創出		オープンスペースの活用回数 (回/年)	40回/年 (R5年度) → 120回/年 (R11年度)
	目標3: 関わる 三河安城交流拠点と周囲がつながり、まち全体で稼ぐ力を伴う関係人口の創出		三河安城駅の利用者数 (人/年)	2,170,000人/年 (R4年度) → 2,830,000人/年 (R11年度)
			地区内の従業者数 (人/年)	6,901人/年 (R3年度) → 8,100人/年 (R11年度)



■エリア価値向上整備事業(社会実験)
三河安城交流拠点地区

■地域生活基盤施設(広場)
三河安城交流拠点交流広場

- 提案事業
- 三河安城駅周辺地区計画
 - 三河安城駅周辺地区まちづくり指導要綱
 - 安城市駐車場附置義務条例
 - 三河安城パワーアップ再生プロジェクト
 - マチナカプレイスメイキング
 - まちを知るきっかけづくり事業
 - オープンデータ活用事業
 - 3D都市モデル運用事業
 - つかう.meet運営
 - まちづくりにおける連携協力に関する協定制度
 - まちマスサポート事業
 - 三河安城交流拠点(アリーナ)整備事業
 - モビリティ人材育成事業
 - 地域スポーツコミッション事業
 - 第二世代交付金(拠点整備タイプ)

凡例

	基幹事業
	提案事業
	関連事業